

# 第 358 回大阪大学臨床栄養研究会 (CNC)

日時:平成 27 年 6 月 8 日 (月) 18:00

場所:大阪大学医学部講義棟 B 講堂

## 「腸管上皮細胞から見た粘液免疫システム」

佐藤慎太郎先生 大阪大学微生物研究所・BIKEN 次世代ワクチン協働研究所・  
粘膜ワクチンプロジェクト 特任准教授

私たちの身体は単純化すると一つの筒にたとえることができる。すなわち、口腔・鼻腔から肛門に至るまで、内側にも常に外界と接している部分が存在している。この「内なる外」を覆うのが粘膜組織であり、常時膨大な数の抗原にさらされている。抗原の中には、食餌性抗原や腸内細菌といった、宿主にとって有益なものもあれば、病原性微生物、アレルゲンといった有害なものも含まれている。これらの相対する抗原に対して、私たちは粘膜免疫システムを構築し、効果的に生体防御を行うと共に、腸内の環境の恒常性を維持している。

上皮細胞層は物理的にも、また、粘液を産生することで化学的にも生体防御機構の一部として機能する一方で、外来抗原が初めて宿主と出会う場所であることから、抗原を内部に取り込み、粘膜免疫系を始動する役割も担っている。

我々は次世代型と称される経粘膜ワクチンの実用化を見据えた基礎研究を行っており、近年は生体防御機構としての上皮細胞、抗原取り込みにおける上皮細胞に関して、腸内常在菌や粘膜免疫担当細胞との相互作用を含めた解析を進めている。今回の発表では、抗原取り込みに特化した上皮細胞への分化メカニズムと、腸管上皮細胞が生体防御能を獲得する上で腸内細菌と宿主免疫担当細胞が関与する事例について、我々の最近の知見を交えてご紹介させて頂きたい。

世話人：消化器外科 I 森 正樹

E-mail: mmori@gesurg.med.osaka-u.ac.jp

---

次回、第 359 回 CNC は、井上善文先生のお世話で平成 27 年 7 月 13 日 (月) に開催予定です。